

天平衣装 華やかな行列

イベント開幕 平城宮跡の観光客を魅了

古都・奈良の天平文化を演出するイベント「平城京天平祭 春」が3日、奈良市の平城宮跡で開幕し、天平衣装の華やかな行列が会場を練り歩いた。5日まで。

第一次大極殿前では、平城京で政務を執った歴代天皇や文武百官、女官らにふ



華やかに練り歩いた天平衣装の行列—奈良市の平城宮跡

んした約400人が行列。豪華絢爛な雰囲気を訪れた大勢の観光客を魅了した。行列は大極殿に到着すると、「宜しく都邑を建つべし」と「遷都の詔」を厳かに読み上げた。

会場には当時の「市」を再現した東市、西市が開かれ、県内の飲食店や酒蔵な

ど約50店が出店した。期間中は、大道芸やものづくり体験、茶会などのほ



東日本大震災の被災地から出店した「浜のミサंगा『環』」

か、ステージでダンスパフォーマンスも披露される。4日には、タカ狩りの実演がある。

訪れた天理市の飲食店員、小柴亮さん(26)は「華やかな行列に目を奪われ、1300年前にタイムスリップしたような気分になりました」と話していた。

被災地支援 ミサंगा販売も

「平城京天平祭 春」の会場では、東日本大震災の被災地からも、地元の女性たちが漁網などで手作りした組みひも「ミサंगा」を販売する。「浜のミサंगा『環』」と、被災地などで炊き出し活動をしてきた「いわて三陸復興食堂」が出店した。売上金の一部は被災地支援に充てられる。5日まで。

法人「ソーシャル・サイエンス・ラボ」(奈良市)と、奈良女子大付属中等教育学校(同)の生徒が共同で企画した。浜のミサंगा『環』は、東北地方で被災した女性に職を提供するため、活動を開始。現在は約100人がミサंगाを制作し、各地で販売している。いわて三陸復興食堂は、岩手県沿岸部の被災者に炊

き出しをする団体。同県内では活動を終了したが、現在も全国で啓発活動が続いている。

両店では、ミサंगाのほか、岩手県大船渡市産のタコの空揚げや地酒などを販売。被災地の映像や写真のパネルも展示した。

出店に協力した奈良女子大付属中央教育学校の藤田若奈さん(17)は「1人でも多く被災地のことを考えるきっかけになれば」と話していた。